



令和6年 二十歳を祝う会

令和6年の「二十歳を祝う会」(主催・妹背牛町)が1月7日、町民会館で開かれ、振り袖やスーツを着た男女が晴れやかな表情で式典に出席し、旧友との再会を喜びました。

対象者19人のうち13人が出席し、保護者や来賓の温かい拍手に包まれて式典会場に入場。田中一典町長が「皆さんの柔軟な発想、エネルギーシユな行動力、そして地域を愛する心に期待しています。感謝や思いやりの気持ちを持って人間性を高め、これからの人生目標を策定し、実践してください」と、贈る言葉を述べました。

名前を呼ばれた男女が一人ずつ登壇し、自己紹介を交えて二十歳の抱負や周囲への感謝の気持ちを発表。小・中学校の恩師2人がお祝いの言葉を述べた後、出席者を代表した2人があいさつの中で社会人としての決意を新たにしました。

記念写真を撮影した後、小学生の時に埋めたタイムカプセルの中身が配られ、出席者たちは当時の思い出が詰まった「宝物」を懐かしそうに持ち帰りました。



同級生と連絡先を交換！
再会した記念に写真撮影！

人 ネットワーク



こばやし たつや
小林 竜也さん (1区)

旭川市出身の私は小学6年生の時、妹背牛町に引っ越してきました。妹背牛中学校から深川西高校に進学し、「地元企業に貢献したい」と、町内のホクレン包材に就職。プラスチック製品を製造する複雑な工程を覚えながら、少しずつ社会人として成長する日々を実感しています。

ものづくりの仕事にやりがい 成長を実感する日々

二十歳を祝う会では、進学や就職で地元を離れた同級生と再会できたことがうれしくて、お互いの近況を報告し合いました。出席者一人ひとりが二十歳の抱負を述べる場面で、製造業に携わる私は「技術の向上」を目標の一つに掲げて発表しました。

専門学校や大学に進学した友人より先に就職した私は今年、社会人3年目。会社では米や砂糖を入れる袋を製造する部署にあり、原料を薄いシート状に仕上げる工程を担当しています。

30個ほどのボタンがある製造機械の操作は難しいですが、スパーなどで陳列されている自社製品を見ると、ものづくりへのやりがいや地域に貢献していることを感じます。一人でこなせる仕事を増やせるように、これからも経験を積んでいきたいです。

昨年のニュースでは、全国的に企業の不祥事が目立っていたように思いました。会社で働く従業員としての責任を自覚し、身近な社会問題にも関心を持てる大人になりたいです。



出席者を代表して、浦瀬海舟さん、写真左と宮崎巴夕倫さん、同右の2人が「社会の一員として守るべき秩序を自覚し、責任の持てる大人になることを誓います」と述べました。

タイムカプセルの開封では、小学生の時に描いた似顔絵や、好きだった漫画、使い込んだバレーボールなどが出席者に渡され、それぞれの思い出を懐かしむ光景が広がりました。

